



乗降室内(90°トレー旋回方式)



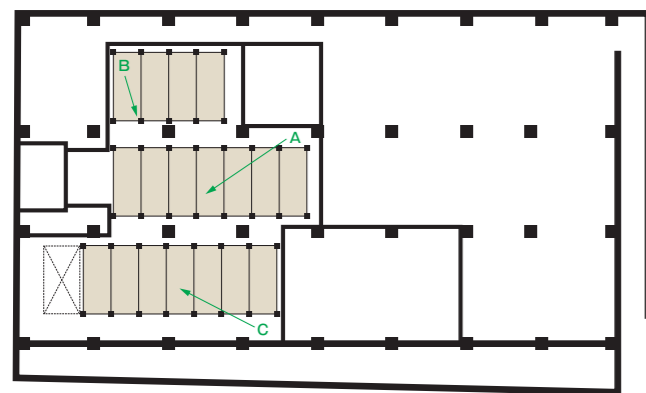
駐車場格納部 A



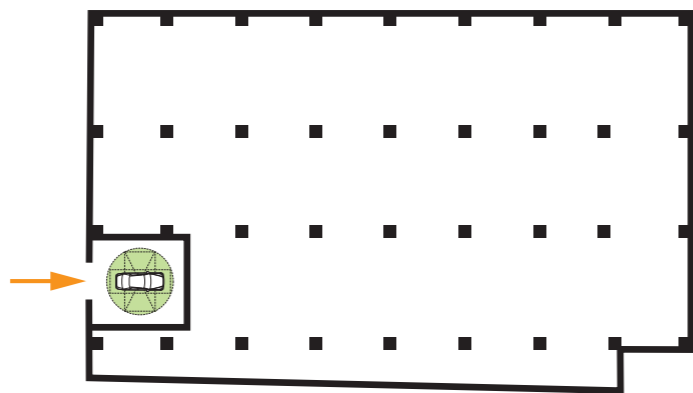
駐車場格納部 B



駐車場格納部 C



据付階平面図



乗込階平面図

日精の次世代型パーキングシステムにより 高い安全性と快適性を兼備

施設の特性上、曜日や時間帯を問わず多くの訪問者が見込まれる「品川リハビリテーションパーク」では、駐車設備に日精の水平循環方式「フレ

キシブルパーク」が導入されました。90度トレー旋回方式を採用、平面効率の高さと優れたコンパクト性により、計15台の収納台数を確保しました。

また、最新の設備とバリアフリー設計を導入することで高い安全性も確保。訪問者の快適な利用に日精の先進技術が大きく貢献しています。

外観は重層する軒と植栽による構成を特徴としています。アプローチの軒下空間は3施設全ての利用者を温かく迎え、各階の軒は地域と繋がる

透明感のある奥深い表情を生み出すとともに、仰ぎ見る街ゆく人々への温かみあるファサードを形成します。フルハイトの開口部を通して居室天井が外部軒へと繋がり、都市型建築でありながら空への広がりを感じさせる明るく開放感のある内部空間をつくり出しています。

本施設は、病院・介護老人保健施設を公益財団法人河野臨牀医学研究所が、図書館部分を品川区がそれぞれ整備・運営を担当。地上8階・地下1階建て、延べ床面積1万1581㎡。1階が受付およびリハビリ・外来、2階が品川区立図書館、3階・4階が介護老人保健施設、5〜7階が病院、8階が管理諸室というフロア構成になります。

MCP(医療継続性能)対策として、大規模災害時には1階エントランスをトリアージスペース、リハビリテーションルームを福祉避難所として活用。近接する急性期病院や避難所である小学校との連携が図られます。さらには、健康講演会の開催や入所者・入院患者の書籍利用など、図書館や同敷地内に建つ小学校との連携も積極的に推進。区民のための新たな地域包括ケアの実現に向けて、中心施設としての役割が期待されています。

地域包括ケア実現のための 都市型モデル施設が品川区に誕生

JR「品川」駅と「五反田」駅を結ぶ幹線道路にほど近い東京都品川区の御殿山小学校跡地に今年6月、病院・老健・図書館から成る全国的にも珍しい複合施設「品川リハビリテーションパーク」が誕生しました。

透明感のある奥深い表情を生み出すとともに、仰ぎ見る街ゆく人々への温かみあるファサードを形成します。フルハイトの開口部を通して居室天井が外部軒へと繋がり、都市型建築でありながら空への広がりを感じさせる明るく開放感のある内部空間をつくり出しています。



品川リハビリテーションパーク 品川区立大崎図書館 外観



オートドア開閉時

- 【建築概要・規模】
 - 建築主 / 公益財団法人河野臨牀医学研究所
 - 敷地面積 / 2,279.82㎡
 - 延床面積 / 11,581.36㎡
 - 設計・監理 / 株式会社梓設計
 - 施工 / 株式会社安藤・間
 - 建築面積 / 1,524.66㎡
 - 構造規模 / 地上8階、地下1階
- 【駐車設備概要】
 - 機種 / 水平循環方式フレキシブルパーク
 - 型式 / FLX1LSRH1-15(4)FDQT-B
 - 収容台数 / 15台

品川リハビリテーションパーク 品川区立大崎図書館